

# 国際メディカル専門学校

学校自己評価報告書  
(平成30年度)

## 目次（評価項目一覧）

### 1. 教育理念・目標

- 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
- 学校における職業教育の特色は何か
- 社会のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか
- 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
- 各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか

### 2. 学校運営

- 目的等に沿った運営方針が策定されているか
- 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- 人事、給与に関する規定等は整備されているか
- 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか
- 業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

### 3. 教育活動

- 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか
- 教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
- キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか
- 関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか
- 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

- 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
- 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか
- 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか
- 職員の能力開発のための研修などが行われているか

#### 4. 学修成果

- 就職率の向上が図られているか
- 資格取得率の向上が図られているか
- 退学率の低減が図られているか
- 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善にかつようされているか

#### 5. 学生支援

- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- 学生相談に関する体制は整備されているか
- 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- 課外活動に対する支援体制は整備されているか
- 学生の生活環境への支援は行われているか
- 保護者と適切に連携しているか
- 卒業生への支援体制はあるか
- 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

#### 6. 教育環境

- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 防災に対する体制は整備されているか

#### 7. 学生の受入れ募集

- 学生募集活動は適正に行われているか
- 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 学納金は妥当なものとなっているか

## 8. 財務

- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 財務について会計監査が適正に行われているか
- 財務情報公開の体制整備はできているか

## 9. 法令等の遵守

- 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか
- 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- 自己評価結果を公開しているか

## 10. 社会貢献・地域貢献

- 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか

## 1. 教育理念・目標

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか	4
社会のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが生徒・学生・保護者に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

### (2) 現状

- 当校では以下の教育理念、学校の使命、人間力育成のための教育指針を掲げ、人材育成を行っている。また、これらの教育理念、学校の使命、教育指針のもと、各学科において学科教育目標が定められている。

#### 【教育理念】

高い専門能力を追求しながらも、単に知識・技術教育に偏ることなく、広い視野と豊かな人間性を持った、想像力に満ちた人材育成の場であること。

#### 【学校の使命】

- 1、よりよい医療人・社会人の育成輩出を通じて地域社会国家国際社会の発展に寄与する。
- 2、学生の夢・希望をかなえる場を提供し、誠心誠意サポートする。

#### 【人間力育成のための教育指針】

実践行動学：目標を明確にモチベーションを維持し、前向きに努力する。

礼儀・礼節：挨拶、状況に応じた言葉遣いや行動をし、感謝の心を持つ。

清潔：身だしなみを整え、環境を整備し、自分の心を磨く。

地域貢献：地域行事に参加することで、地域に愛着を持つ。

国際理解：海外研修や留学生との交流を通じて異文化理解と受容の精神を持つ。

奉仕：ボランティア活動を通して、他者を思いやる謙虚な気持ち、公共心を持つ。

集団行動：他者との協調、集団の中で自らの果たす役割、リーダーシップを学ぶ。

- 当校の教育の特色として以下の点が挙げられる
  - ・ 厚生労働省指定養成施設ほか外部機関から指定・認可を受けた学科が多く、カリキュラム、教員、施設、実習施設等法令の要件に則り整備されている。
  - ・ 職業力を高めるための、病院等医療機関、社会福祉施設等と連携した職業実践型実習が豊富に取り入れられている。
  - ・ 国家資格、検定資格指導にあつては各学科とも高い合格実績を支える指導の仕組みを備え、学生個々へのきめ細かい対応を行っている。
  - ・ 豊かな人間性を養うために地域行事への参加や、ボランティア活動などを実施している。

- ・ 文部科学省の職業実践専門課程の認定を受け、大学、病院、各種業界団体等の有識者と議論を重ね、学生指導・教育課程の編成について検討をしている。

2019年3月時点で職業実践専門課程の認定を受けている学科は、医療事務総合学科、臨床工学技士科、看護学科、鍼灸学科（昼）、鍼灸学科（夜）、診療情報管理士学科の6学科で全学科が認定されている。2018年度医療事務総合学科、2019年度臨床工学技士科、看護学科でフォローアップも終了し、適正に運営されている。

- 教育理念・学校の使命や人間性育成のための教育指針は学生には年度当初に配布する「学生便覧」に記載し、新入生・在学生に周知している。また、保護者には保護者会にて伝えている。また、各学科とも3つのポリシー（入学受入れ、教育課程、卒業認定）をさだめ、年度初めのオリエンテーション、オープンキャンパス時に説明し、募集要項にも記載し、周知を図っている。
- 保護者アンケートでの前年比で肯定的意見が増えた項目は「学校説明会などに入学前の情報提供は適切である」87.9%で前年比13.4ポイント増。「学校は教育目標に応じた授業を行っている」80.3%、前年比3.9ポイント増。「学校は行事などで学生の積極性、自主性を育てる教育を行っている」81%、前年比6.4ポイント増。「教職員は学生からの相談、保護者からの相談に適切に応じている」68.1%、前年比8.8ポイント増。一方、「お子さんの進路について、担任と保護者様との情報共有ができています」項目は47%で前年比1.4ポイント低下。また、「学校は適切に進路指導、模擬面接、個別面談などを行っている」「学校は学生が進路決定に必要な情報を提供している」項目は「わからない」回答が各33%と前年より4から5ポイントアップした。

### (3) 課題と改善策

・ 保護者および関連の業界関係者へは、職業実践専門課程の認定をうけ、ホームページ上情報発信を進めてきている。保護者アンケートでは、一昨年「保護者の学校、学生生活の様子理解」は前年度大幅に好転したが、昨年度は逆に低下した。動画の配信に力点を置いてきた一方、手紙や電話といったコミュニケーションが不足していたと認識し、保護者には保護者会等での面談機会、電話による連絡を意識した。結果、若干の好転は見られたが、一方で学校の学生指導の状況が否定的意見ではないが「わからない」をいう回答が増えた。学生と保護者とのコミュニケーション不足があるかもしれないが、学校から保護者への情報提供がまだ不足していると考えて、改善を図るべき点である。保護者および関連の業界関係者の理解が深まるよう情報発信の機会・方法について工夫を加えていきたい。

・ 時代に即応した業界の求める人材像について、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を通じて、さらに議論を深めていきたい。

・ 各学科の3つのポリシー（入学受入れ、教育課程、卒業認定）を分かりやすく整理した。2019年度入学生向け募集要項にも各学科の3つのポリシーは明示し、周知を図った。

## 2. 学校運営

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4
人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

### (2) 現状

- 運営方針は年度初めにビジョンシートに明記され、職員会時に全教職員に周知される。更に、各部各科で単年度ごとの運営方針を具体的明確にし、職員会で周知・共有している。
- 学校の運営については、学則および諸規定によって明確化されており、有効に機能している。また、教職員による運営組織については組織図、校務分掌を毎年作成することで明確化している。
- 教務・財務等の組織整備など、法人全体の重要事項については、理事会・評議委員会が組織され、定期的な運営状況の報告を行っており、不定期に発生する法人全体に関わる重要事項についても、理事会・評議委員会を開催して意志決定がなされている。
- 校内においては会議規程に定められた運営部会、運営に関する会議、学科長会議、職員会議を定期的に開催し、必要に応じて重要事項の協議・決定を図っており、組織としての意志決定を効率的に行っている。
- 人事、給与については法人の就業規則並びに諸規定によって規定されている。
- 教育活動等については当校 Web サイト等により情報公開に努めている。
- 情報システムとしては、学籍管理システム、財務会計システム、予算検討システム、学校業務支援システム（学生納付金の管理等）等により効率的に運用されている。
- 学費サポートセンターの創設による業務省力化が図られている。
- 経費精算システムの導入により、教職員の事務作業負担の軽減が図れている。

### (3) 課題と改善策

- ・教育活動の外部向け情報発信・機会を従前より増やしている。動画、SNS 等による。
- ・一方で、手紙、電話、面談等旧来かつ基本的なコミュニケーション機会が減ったようだ。アナログもデジタルも両輪を大切にしていきたい。
- ・同一校舎内に複数の養成施設、学科があり、相互の実習室の利用や他学科の教員による

指導が受けられるというチーム協力が図られる良い面がある。ただ、年間の動きが各科スケジュールで違いがあり、連携不足の点もある。教職員相互のコミュニケーションをさらに深める機会をつくっていく。

- ・学校方針、運営方針により、目的・目標を明確にし、教職員に共有、在校生に周知するとともに、入学希望者はじめ学校関係者に広く周知を図っている。
- ・入学希望者へはオープンキャンパスの際に全体説明をしている。
- ・働き方改革の流れを受けながら、ワークライフバランスの推進を図ることを方針の一つに掲げた。しかし、個々の教員、特に新任教員の業務習熟度から時間内での業務処理が難しく、家庭との両立が図れないことを理由に年度途中で離職となったケースがあった。大変残念なことで、次年度に向けての工夫改善項目としたい。引き続き、教育サービスを向上させるとともに、教職員の研究などの自己啓発、私的な生活の時間を充実させることで、仕事の質を高めたい。

### 3. 教育活動

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか	4
教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか	4
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修などが行われているか	3

#### (2) 現状

- 教育課程の編成・実施は教育理念、学校の使命、人間力育成のための教育指針を踏まえた上で、学科長を中心に策定される。明確に定められた学科教育目標に沿って体系的に編成されている。その上で、指定養成施設は各指導要領に則り、教育課程の変更承認申請を行っている。
- 実践的な職業教育として、病院等医療機関および社会福祉施設等または校内の学校附属鍼灸治療院での職業実践型実習授業を全ての学科で行っている。
- 授業評価については前期・後期の各期に1回、年間2回の学生授業評価アンケートを行っている。結果は担当教員にフィードバックされ授業の改善に反映されている。
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められており、「学生便覧」に記載され学生に周知されている。各科目担当教員より各期ごとの試験等による評価を行い、病院等による実習の評価にあたっては当該実習先の指導者から実習後に評価をいただく。
- 資格取得についてはカリキュラムの課程認定を進めることで体系的に位置づけ取得しやすい体制を整備している。また、対策授業を取り入れることで学生の資格取得を支援している。

- 教員の資質向上については、研修規定に基づき法人にて行われる各種研修の他、各学科の専門性に応じた外部研修、学会への参加等を奨励している。また、職員の能力開発については法人全体でマネジメントや広報等、各種研修に取り組んでいる。

### (3) 課題と改善策

- ・すべての学科が職業実践専門課程の認定を受けている状態になっている。更に業界団体との連携・情報交換を行い、より中身の濃い教育を継続することでよりよい医療人・社会人としての人材育成に努める。
- ・学生のみならず、教員が病院現場に赴き、最新の機器のレクチャーを受けるなど、教育課程編成委員会で提案された実践的教員研修が具体化している。より中身の濃い教員研修ができるようにしていきたい。
- ・専門学校グループ全体での取り組みとして、「志・未来塾」などのリーダー育成プログラムが充実してきている。志ある高校の教員の方の参加も増えている。積極的に参加している学生は各回の講師の話、他校学生との交流で大いに刺激を受けているようである。

#### 4. 学修成果

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

#### (2) 現状

- 就職部、就職・進路相談室を配置し、法人の関連部署、実習先病院・施設、卒業生等との連携を図り、求人獲得、就職支援を行っている。
- 資格取得は各学科で最重要課題として取り組んでいる。資格取得実績は学校全体で高いレベルで維持している。
- 健康上の理由や精神的な理由による欠席等、学生の状況については、月例の学科長会議で学科長からの報告により把握、共有される。また、学生の生活上の諸問題等について、必要に応じて個別面談等を実施し、スクールカウンセラー等の活用等退学率の低減に努めている。
- 退学者は学科により前年より増えたところがあった。モチベーションの低下、学力不足、経済的な理由による。
- 卒業生については校友会が組織され、校友会総連合会との連携により卒業生の動向を把握している。
- 卒業生から在校生向けに就職活動・学習に関する動機付けの座談会等の機会を設けてきている。

#### (3) 課題と改善策

・実習先病院に就職している卒業生の動向把握は比較的容易であるが、県外への就職をした卒業生の動向把握が難しい。今後はホームページによる情報発信のほかに SNS 等の活用により、より卒業生の情報・動向の把握に努める。次年度、校名変更から 15 周年を節目に、卒業生の動向把握の施策を行う。

・基礎学力不足の学生が散見される学科においては、早期から例年になく特別な働きかけを試みながら、最後まで全員を合格に導くようあきらめずに取り組んできたが、一部、卒業が認定されない学生がいた。

・一昨年度、昨年度、一部学科で国家試験の出題傾向の変化に翻弄される学生もいた。多少の傾向変化に動じないしっかりした力をつけられるよう教員の指導方法、情報収集力の向上に努めて、改善を図り、議論を重ねてきた。結果、前年の国家試験合格実績を上回る見込みと共に、昨年度の不合格者の多くを合格に導くことができた学科がある。

## 5. 学生支援

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

### (2) 現状

- 進路・就職相談について、主に就職・進路相談室が窓口となり、本人の希望や業界とのマッチング等に配慮しつつクラス単位、個別単位に指導を行っている。また、学生の生活上の諸問題等について、必要に応じて担任により個別面談等を実施している。
- 財団法人日本産業カウンセラー協会による学校訪問対面カウンセリング制度を整備し、学生相談に対する体制を整備している。
- 経済的な支援体制については、特待生制度、法人独自の奨学金制度、納付金の延分納制度等を整備している。また、事務局に担当窓口を設け、教育ローンや奨学金活用の相談を受け付けている。2019年度入学生からは一人暮らし支援制度を設け、アパート家賃の負担軽減を図る施策を行っている。
- 毎年6月に保護者会を開催している。クラス担任による個別面談を実施し、保護者との連携を図っている。
- 卒業生に対しては校友会ホームページを通じて学校情報を提供している。
- 社会人の入学希望者が多い中、専門実践教育訓練給付金講座の指定を臨床工学技士科、看護学科、鍼灸学科（昼）（夜）が受けている。2019年度すべての学科がこの制度の再指定を受け、対象の入学生の便宜を図ることができている。
- 高校生、中学生の職業選択にかかる研究として学習訪問活動を積極的に受け入れている。

### (3) 課題と改善策

- ・学校内で学科を超えたサークル活動が活発になってきた。野球、バスケットボール、ダンス等スポーツを中心に活動の幅が広がってきている。
- ・姉妹校間の交流が活発になってきている。在校生の中にスポーツ活動、地域文化活動に積

極的に関わっていく者が多くなっている。今以上に学校内外でコミュニケーションが広がられるように支援をしていく。次年度はグループ内で学校を超えたスポーツサークルができる予定。

・社会人の学び直しの機会のよりよい環境を提供するため、厚生労働省の教育訓練給付金指定を受けている学科が4学科ある。この制度を利用する入学希望者も多いため、更に周知を進めたい。2019年4月がこの指定の更新期のため、再指定申請を行い、4学科すべてが再指定を受けることができた。この給付金制度の内容が拡充され、利便性が高まっているので、社会人の入学希望者へ広く周知していきたい。

## 6. 教育環境

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	3

### (2) 現状

- 指定養成施設が多いことから、校舎内施設設備、必要備品類にあつては法令の基準に則り整備されている。
- 法人が所有する研修施設において、各種オリエンテーション、就職研修を宿泊研修として実施しているほか、学校全体での講演会も実施している。
- 学内外の実習施設はどの学科も豊富に用意されている。海外研修は一部の学科で海外提携校を持ち、教育交流が図られているが、他学科では研修旅行の実施参加レベルに留まる。
- 春・秋定期に学校全体での防災訓練を実施している。震災想定・火災想定それぞれに校舎から外部集合場所への避難完了時間を測定し経年比較をしている。

### (3) 課題と改善策

- ・既存の海外提携校との交流を大切にしながら、今後も更に海外提携校（特に英語圏）との交流を模索し、国際化の推進を図りたい。
- ・校内での留学生交流会への参加者が増えてきている。年1回から年2回の開催に増しての活動が定着してきていたが、昨年度は参加に消極的な学生が多かったため、担当者がこの行事の意義の周知に努めるとともに、より中身を魅力的なものに工夫することで、大幅に参加者を増やすことができた。
- ・海外研修旅行はシンガポール、台湾の2コースで実施。中国、天津の姉妹校訪問は今年度は対象の参加者が少人数のため次年度へ見送りとした。自身の視野を広げる良い機会でもあり、その意義をよく理解してもらえよう情報を提供していきたい。海外研修実施にあたっては、国際情勢を踏まえ、安全を最優先に情報収集を行い、実施コースを検討していく。

## 7. 学生の受入れ募集

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学生募集活動は適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### (2) 現状

- 学生募集については、パンフレット、学生募集要項を毎年作成し、入学希望者に配布している。また、ほぼ月1回の頻度でオープンキャンパスを開催し、オープンキャンパスでは授業体験を実施する等、当校に対する理解を深めてもらっている。その他、県内県外の高校訪問等による学生募集活動も実施している。
- 資格取得実績、就職実績等について数値データを示し、理解を図れるよう説明している。
- 卒業生の進路状況や各種資格検定取得状況等の教育成果は、パンフレットや Web サイトへの掲載によって公開されている。

### (3) 課題と改善策

- ・大学との併願で当校を志望する方も増えている。高いレベルの資格取得実績、専門職への就職実績はじめ、人間性育成教育、学校生活の様子など細かい情報提供を行うことで、本人の将来進路にとって、よりよい選択が適うようになっていきたい。
- ・社会人の学び直しのニーズに応えるよう社会人の入学が多い4つの学科で厚生労働省の専門実践教育訓練給付金講座の指定を受けている。問い合わせ、オープンキャンパスの参加社会人が増えている。講座指定を受けるための要件は、国家試験等の合格実績、就職実績が高いレベルであることと、中途退学者が少ないことなどの教育機関の質が問われる。今後ともこの高いレベルでの教育水準を維持していくよう研鑽努力を重ねていく。
- ・学納金は学生の負担軽減を考慮し、一部の学科で見直しを行うこととした。

## 8. 財務

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### (2) 現状

- 法人として健全な財務状況となるべく中長期で収支計画を立てており、適切に外部監査を受けている。

### (3) 課題と改善策

現状で直ちに改善しなければならない大きな課題はないが、18歳人口の減少や高校新卒者の就職率など外部要因の変動による収支への影響に耐え得る財務基盤の構築を行っていきたい。

### 特記事項

学校法人として収支計画を立てているため、情報提供も法人単位としている。

## 9. 法令等の遵守

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3
個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

### (2) 現状

- 法令、設置基準の遵守について、専門学校担当課との対応は法人本部で窓口となり一括して行っている。また、指定養成施設である学科については学校責任者が窓口となり厚生局、県担当課へ定期的に自己点検の報告を行い、変更事項については適切に承認申請および申請届出の手続きが行われている。
- 個人情報の保護に関する規則は明文化されており、学生便覧に記載され学生へも周知されている。
- 教職員へのアンケート等も踏まえた自己評価を実施し、問題点については順次改善に取り組んでいる。平成 25 年度からは学校関係者評価委員会も設置し、自己評価の妥当性、透明性の向上を図っている。

### (3) 課題と改善策

- ・ 2018 年 9 月に臨床工学技士科、鍼灸学科に新潟県医務薬事課により養成施設の運営に対する指導調査があったが、特に改善すべき点はないと運営状況良好の評価をもらった。一方、2019 年度年度途中で退職する教員があった。授業運営に支障のないよう外部講師による担当替えを行った。当該学科の国家試験結果は前年実績を上回る見込みである。
- ・ 自己評価については、学校関係者評価委員会の評価を経て、当校の Web サイトに掲載して公開している。
- ・ 学内の学生の声を広く聞くべく、後期に「ご意見箱」を設置した。月に 2～3 件の意見、要望、質問がある。全体に共有した方がよいと思われる意見、要望、質問については、学校長が回答し、校内の掲示板にて周知を図っている。

## 10. 社会貢献・地域貢献

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4

### (2) 現状

- 地域おこしのイベント行事への参加を行っている。
- 近隣地域への清掃活動、募金活動を定期的に行っている。地域のスポーツイベントに鍼灸無料体験治療等での参加をしている。
- 過去に厚生労働省の基金訓練、文部科学省の委託訓練による学科開設実績があるが、近年開講実績はなかった。

### (3) 課題と改善策

・公開講座については具体的な検討を進めている。一昨年度は校内で行われているチーム医療講演会を地域の方々や高校へも聴講できるよう案内をした。

・新潟テクノスクールの委託事業に当校の内部学生の教育に支障の無い範囲内で医療事務学科の教育リソースを活用してもらうよう時期を限定して応募した。結果、採択され2019年9月から12月で「医療事務科」を開講した。受講生は12名であったが、終了アンケートでは満足度の高い講座であったことが伺える。検定就職についても良好な実績を残した。この実績があり、2019年度においても委託訓練「医療事務科」が採択された。受講生は同じく12名でスタート。途中就職決定により1名が講座を離れたが、残る11名は全員修了。真面目な受講姿勢であった。